

技術・家庭科

【研究主題】

多様な関わりから、社会を見つめ、よりよい生活をつくり出す生徒の育成

【研究副主題】

社会や生活と自分のつながりを「見える化」する学習の展開

公開授業

学級：3年3組 授業者：守屋 幹子



ともに生き、ともに未来を紡ぐ～家族や地域との関わりを通して～

本校技術・家庭科では、社会や生活と自分のつながりを深めるために、各分野の学習内容を関連づけて、社会や生活における統合的な問題を解決する題材を計画しています。

本題材では、“**幼児とのよりよい関わり方に関する課題解決学習**”を御提案いたします。

事前調査から、生徒は幼児と関わる機会が少なく、「年齢が離れている幼児とうまくコミュニケーションを取ることができるか不安」「幼児とどう接すればよいかわからない」という思いを抱えていることが明らかとなりました。幼児と触れ合い、よりよい関わり方を考えることを通して、中学生も家庭や地域社会を担う一員として、その発展に貢献できる存在であることに気づかせたいと考えています。

今回の家庭分野の公開授業では、附属幼稚園での交流体験活動を通して学んだことを基に、幼児との関わり方を見直し、よりよい方法を見いだしたり、他者と協力・協働する大切さに気づいたりする活動の場面で主体的に課題に取り組む態度の涵養を図りたいと考えています。今後、これらの学習内容を基に、「幼児のおもちゃ制作」につなげ、技術分野と家庭分野の学習内容を関連づけた学習に取り組んでいきます。

当日は、学習への見通しを持ち、課題の解決に主体的に取り組もうとする生徒の姿を御覧いただくと幸いです。

メタ認知との関わり

幼児とのよりよい関わり方についての課題を解決するために、自他の考えを共有する場面を設定することで、課題解決の過程で必要な協力・協働を引き出し、交流体験活動前に考えた関わり方の工夫をよりよくするための機会を創出します。このような活動を通して、技術・家庭科の学習に有効なメタ認知的知識「**どの程度理解が深まっているか振り返り、計画や実践方法を見直すとよい**」を自覚させ、主体的な学びを支えるものにつなげます。

長崎大学教育学部附属中学校教育研究協議会

令和7年6月20日（金）13:00～16:10

詳細はこちら

